

〔和漢三才圖會九十二本〕和わ人じん參せん略略○中

按人參往昔本朝有之、而中古不用之、出於薩摩者名小人參一名節、近年得唐人參種、多植圃攝州平野庄多出之、二月下種、初生一莖三葉、及長數極皆三葉、其葉厚潤有深刻而無筋、略似銀杏葉、每八月中心抽一莖、高三四尺、開細白花、如蓋似蒴藿及胡蘿蔔花、秋後結子細小、亦似胡蘿蔔霜後枯宿根亦能生也、九月採根如胡蘿蔔、而淡白色、以甘草汁蒸乾則能類人參、但頭無橫文、蘆頭不括縮耳、功能亦不及故用者鮮、

和州吉野山中有自然生者、又有得真朝鮮參種植者、並其葉根與朝鮮不異、然甚希而未足賣買、〔重修本草綱目啓蒙七〕人參

和人參 サツマニンジン ヨシノニンジン トチニンジン ドチノキンジン トチバナ

シジン ゴヤウニンジン ウコギニンジン サンシゴヤウサウ ゴヤウサウ 城州 貴船 コニン

ジン 鬚毛 クマモトニンジン 肥後 ヤマニンジン 日光 ニツカウニンジン 下野 シマバラ

ニンジン 肥前 シマニンジン 津輕 ス、クシニンジン 南部 カモジンジン 會津 鬚トモニ

云、延喜典藥寮式諸國貢藥目次中ニ攝津伊勢陸奥若狹丹波美作太宰府伊豫越前甲斐トアリ、

貝原翁ノ説ニハ沙參ナラント云ヘリ、此説近シ、和人參ノ出タルハ、稻松岡兩先生ヨリ以後ノ事

也、人參ニ限ラズ、今詳ナラザル藥品式ニ載ルモノ多シ、和人參ハ今諸國ニ産ス、皆深山幽谷雜木

多キ陰地ニ生ズ、其初薩摩ヨリ出ヅ、故ニ總シテ薩摩人參ト呼ブ、又俗ニ三極五葉ト云、一莖直上

シ、梢ニ三枝ヲ分チ、枝ゴトニ五葉ヲ生ジテ、五加葉ノ如ク皆鋸齒アリ、然レドモ三極五葉ニ限ラ

ズ、年久キモノハ六七極八九葉ニ至ルモノアリ、又層極ナル者アリ、並ニ極中別ニ一莖ヲ出シ、其

梢ニ細小花ヲ簇生ス、五瓣ニシテ淡綠色、中ニ白蕊アリ、亦五加花ニ似タリ、又紫藥ナル者アリ、コ

レヲ紫花人參ト云、城州岩屋ニアリ、花後實ヲ結ブ、形圓カニシテ綠色、秋冬ニ至リテ紅熟ス、又一